

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス・相談支援窓口Thank you		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 3月 10日		～ 2025年 3月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設としての強み ・同法人にて児童発達支援・放課後等デイサービス・相談支援の運営をしている為、保育所等にいる様子、施設にいる様子を 知ることができる。 ・上記の理由により、保護者様と密に情報共有や意向の確認が できる。 ・提案した支援方法、保育所等で実施している活動やルールを 知ることができ、利用者様に共通の意識を持った声掛けや療育 内容を提供することができる	・訪問時の情報を全職員で共有し、訪問支援員でカンファレン スを定期的に行い、直接支援の方法や間接支援の方法について 意見交換を行っている。	・訪問支援員をチームで実施をしていくことで、一人だけの 主観に凝り固まる事なく支援の可能性を広げていく。
3	人の強み ・実務経験が豊富な職員や、言語聴覚士を含む専門職による訪 問支援が可能なこと。 ・担当制を導入し、継続した支援が可能なこと。 ・訪問支援員が定期的に保育所等訪問に関する研修に参加し、 研鑽を積んでいる。	・相談支援専門員や言語聴覚士とも事例検討をし、様々な角度 から困り感の解決を模索している。 ・知識豊富な職員が居る為、具体的な調整器具の紹介なども実 施している。	・人による支援のムラを無くするため、訪問支援員をチーム制 にし、経験のばらつきをカバーし、意見交換が活発にでき、 一人で抱える事が無い環境にする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	間接支援の実施が不十分である	・他の児童へ知られてしまう点や、訪問支援員の姿に気が付く と日常と様子が変わってしまうことがある。 ・高学年からの希望の場合は特に本人の抵抗感も出てしまう事 があるので配慮が必要である。	・新規の方の間接支援の際は、事前にどれだけすり合わせが でき、共通の目標に出来るかがカギである為、前もってのア プを取りを実施する。
2	通常級に在籍している利用者への直接支援が不十分である	・保護者様からの要望はあるが、訪問先は訪問を必要としてい ないというケースがある。 ・多忙の中、どのように訪問先に会議の場を設けて頂くの化策 が見つからない。	・ご利用の希望があった際に、通所サービスご利用時様は 関係機関連携として訪問し、必要性を訪問先の先生にも事前 にお伝えをし、スタート時の想いを共通化する。
3	訪問先の先生方に会議や共有のお時間を頂く事が難しい。	・特に小学校の先生方にお時間がない。 ・指導員により、要領にバラツキがあり、手間をおかけしてし まっている。 ・保育所等訪問の意図を始めにご理解いただく事ができていな い。	・訪問時に次回のご予定を決めるようにする。 ・お時間を作って欲しい事を前もってお伝えしておく。 ・先生方のご都合に沿った日程の調整をする。 ・お手紙にまとめるなど、訪問時に終えられる事を工夫して いく。